

## 令和2年度 第1回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日時 令和2年7月15日（水）午前10時～午後0時25分

2 場所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員）大谷裕美子委員（議長）・三村明弘委員（副議長）・浦林直子委員・  
上武敏一委員・近藤裕一委員・清水泰之委員・土本みさ子委員・  
徳田浩平委員・中嶋宏明委員・中田弘司委員・平井富久子委員

（事務局）八重生涯学習部長・清水生涯学習課長・井川生涯学習課長補佐・  
西野図書館長・入井図書館副館長・錦図書館南分館長・  
平澤図書館北分館長・中谷駅前図書室室長・西スポーツ振興課長・  
谷江生涯学習課主幹兼生涯学習文化係長・上田生涯学習文化係員・  
小関生涯学習文化係員

（欠席者）大辻哲男委員・白樫学委員・松尾正則委員

（会議の公開・非公開） 公開

（傍聴者）なし

4 議事内容

○ 委員紹介・事務局紹介

○ 審議案件

（1）議長・副議長の選出について

全会一致で、議長は大谷裕美子委員、副議長は三村明弘委員に決定。

（2）社会教育委員の業務について

事務局から説明

（3）令和元年度「社会教育基本方針及び重点目標」にかかる実績報告について

事務局から順次説明

（4）令和2年度「社会教育基本方針及び重点目標」（案）について

事務局から基本方針と重点目標（案）の説明

【基本方針】すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる  
機会づくり（第2次生駒市教育大綱に沿った方針）

【重点目標4つの柱】

① すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

② 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

③ 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

④ 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

審議案件（3）について

（質 疑）

清水委員 （図書館年報について）令和元年度実績は利用人数が減少、貸出冊数が増加  
となっているが、理由は何か。

事務局 令和元年度より1人あたり1回の最大貸出冊数が5冊から12冊に増えたことにより全体の貸出冊数が増加となった。1回の貸出冊数が増えたことで貸出人数は減少となった。

#### 審議案件（4）について

（重点目標や事業についての質問や意見）

平井委員 生駒の伝統文化である茶筌について市民がもっと誇りに思っていて欲しい。市民でもまだ知らない人が多いが、魅力を伝えるのが難しいのが現状。もっと伝えやすくなれないか一緒に考えていきたい。魅力を伝えるには体験するのが一番。体験する機会を増やし魅力を認識して欲しいという願いがある。生駒にはふるさとミュージアムという素晴らしい施設もあり、伝統文化に触れられる素晴らしい施設もあるのに認知度が低くもったいないと感じている。

浦林委員 茶筌に関しては同意見を持っている。教科書で習うだけではなく、茶筌を使いお茶を点てる経験が必要だと思い、全小学6年生対象の茶道体験事業を教育委員会に提案した経緯がある。現在も継続して実施していただいているが、市民全体に魅力を浸透させていくのはまだまだ難しいのが現状。「高山茶筌の会 wi-wi」や商工会議所との連携も深める必要があると思う。

上武委員 商工会議所の立場からも茶筌の重要性は認知しており、市も各事業所も様々な取り組みをしている。なかなか効果が見えづらいが、今後も地道な活動を続けていく。

事務局 魅力を伝える難しさは感じているが、北分館を中心に継続的に事業を展開しており、重点的に展開したい。実績でもお話した「君は茶柱 project」をきっかけに来年度に向けて本格的につなげていきたい。

中田委員 生駒市子ども会育成連絡協議会の立場としても同意見で、重要性を感じている。毎年ちびっこ文化祭では「ちびっこ茶席」を開催し、現在までに29回開催し、たくさん子ども達に体験の機会をつくっている。また、あすなろ会のメンバーに昨年度、「自分たちがやりたいことをやってみたら？」と提案したところ、子どもたちから茶道体験がしたいとの意見が出され、継続的に実施している取組が少しずつではあるが着実に広まっていることが実感出来て嬉しく思った。一気に広めるのは難しいので、広くいろんな場所で伝統文化を広めていくことが必要だと感じている。他の重点目標については、特にコミュニティスクールの今後について注目している。教育指導課がメインで進めていくことは理解しているが生涯学習課も深い関わりがある。地域は地域で実行しないと広まらないので、今後の動きはモデルになっている3校の様子を参考にしていきたいが、そのまま踏襲するのではなく、地域に合ったものをしていきたい。結果だけではなく、進捗についても都度情報が欲しいのでお願いしたい。

中嶋委員 歴史読本についても触れていたが、子どもたちへはどのように働きかけて活用しているのか。

- 事務局 市内の小学校6年生の補助教材として毎年配布しており、社会科の授業で活用いただいている。
- 中嶋委員 (仮称) いこまスポーツの日の開催について、e スポーツも取り入れる話があったが、ハード面の計画はどうなっているか。
- 事務局 計画的に進めるため、実績のある事業者等をリストアップし、現在実施の検討を行っている。
- 中嶋委員 コロナウイルスに関しては、事業の中止が、実績や計画でも多く出ていたが、中止ばかりではなく、継続していく方法を模索していく必要を感じている。今後会議でも議論をしていきたい。
- 徳田委員 ビブリオバトルのオンライン化について報告があったが、実績について知りたい。
- 事務局 1回目は80人、2回目は112人。オンラインになって観戦者は増えてきている。
- 徳田委員 茶釜のPRに関しては理解したが、なぜ北分館でだけ実施しているのか。市内だけでなく、大阪や奈良市などに広く外部へもPRすればいいのではないか。
- 事務局 北分館で実施しているのは、茶釜の里である高山に近いのが理由。すぐに体験や見学に促すことができる。茶釜のPRのための事業というよりは、wi-wi事業の一環で茶釜に触れており、本来の目標は、地域を知り、地域を愛すること。連続講座などで今後も継続的に広めていきたい。
- 徳田委員 PTA協議会の立場としては、子どもたちの親が特にコロナウイルスに敏感になり心配している。子どもたちが安心して参加できるようにコロナ対策のPRも積極的に行っていってほしい。
- 土本委員 スポーツの発展に関する重点目標へのご願い。子どもや障がいをお持ちの方へのスポーツだけでなく、高齢化に伴い、高齢者に対する活動にも取り組んでいただければと思う。
- 三村副議長 学校の現状としては、with コロナの状況下で、子どもたちも敏感になっている。できることを考えていかななくてはならない。
- 浦林委員 この社会教育委員会議は、地域に根付いた活動をしているそれぞれの委員の方がそれぞれの立場で意見を発信し、素晴らしい機会だと感じた。年間に2～3回の開催だけではなく、もっと委員同士が意見交換をできる機会を増やしたい。発言や意見交換だけではなく、アクションプランに上がっている事業にも関わったり、参加した上での報告も必要だと思うので、機会をもっと増やしていくべき。  
学校を活用したサマーセミナーの開催について言及しようとしていたが、今年にはコロナ対策でオンライン開催ということで、良いと思う。  
たけのこの活動に関してはメンバーに保護司や、心理学等の有資格者のメンバーも加えて、より専門性をもって家庭に入っていったり、学校を離れても継続して関わられる体制を考えていただきたい。和歌山県の橋本市や泉大津市

などで実績があるので、参考にしてもらえたら。相談に関してはユースネットいこまがあるが、当事者やご家族が相談にたどり着くまでが難しいのが実情。

上武委員 皆さんの意見のとおり、生駒の歴史や伝統はとても大事だと考えている。商工会議所の立場でできることを考える機会にしたい。

近藤委員 重点目標の柱の順番が昨年のものより変わっていることについて重要度や優先順位が変わっているという意味ととらえている。  
コミュニティスクールに関しては私もぜひ情報や報告がほしいと考えている。今回の報告にもあるように、市の事業は様々実施し、実績があるのは伝わっているが、市の事業はとにかく認知度が低いので、どう高めていくかを重点的に考えてほしい。

清水委員 重点目標の主人公は一体だれなのか。誰が誰に対して実行していくか、明らかにすることが事務局の役目であると再度認識してほしい。  
特にコミュニティスクールに関しては現在最も議論しなければならない事項だと認識している。もっと深く触れていかなければならない。

大谷議長 多くの委員の意見からもあるように、各委員の有志で集まる機会を増やし、意見交換や報告をする場をつくってほしいと思う。

審議案件（5）その他

事務局からの事務連絡

閉 会